



十三駅(阪急各線)①

知られざる職人のまち十三を歩く

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.003

阪急十三駅

その昔、このあたりに小島や干潟が13あった。摂津国西成郡の第十三条にあたる。摂津の国内で中津川に13番目の渡しがあった。ツツミ(堤)が十三になった。などなど名前のいわれにはいくつもの説があります。

①波平通り(十三駅前西商店街)

- 鉄腕アトムと、サザエさんの波平さんを合体させた鉄腕波平がそのマーク。手塚プロと長谷川町子美術館の許可をいただいているそうです。自由奔放な大阪の十三ならではのアイデアです。

②神津神社

- 神津神社はこのあたりの氏神で、江戸時代は「小島の八幡神社」と呼ばれていたそうです。今宮戎神社から分霊をいただいて「十三戎」を合祀しました。毎月13日には十三市が開かれます。



③島左近・島道悦の墓

- 関ヶ原の合戦で西軍の軍師として戦い、家康の本陣に迫りましたが、小早川秀秋の裏切りで討



- ち死にした島左近の墓です。島道悦は左近の孫で、中津川の治水事業に命をかけました。

④猪飼弓具店

- 戦国時代からの京弓の伝統を継ぐ19代柴田勘十郎に弟子入りをし、弓師として独立された猪飼秀重さんのお店です。大阪唯一の弓具専門店で、大阪一円の弓道愛好家が入りします。

⑤山井かつら店

- 大衆演劇の役者や舞踊の師匠などのかつらをつくる職人・山井豊さんのお店です。注文主の頭に寸法に合わせ、生え際を決め、毛を植えます。すべて手作業です。

⑥北岡神祭具店

- 神棚から社殿まで、手のひらに乗るようなものから体が入るようなものまで、この道60年の北

- 岡和彦さんのお店です。神鏡台、ぼんぼり、灯台、玉串筒、神棚、手水舎、大鳥居など製図から細部の彫刻まで、すべてひとりで手掛けています。

⑦つばめ通り(十三東本通商店街)

- 昭和30年代の佇まいが残っている最寄品の商店街です。南国から毎年つばめがやってきてヒナを産み育てたというので、この名前がつけました。

⑧(株)大阪西川

- 元禄時代に京都伏見で創業され、大正末期に十三に移られたという西川道雄さんの柿渋店です。渋柿の天然果汁を採取して、何年も発酵・熟成させると琥珀色の柿渋が生まれます。薬、天然塗料・染料、防虫・防水・防腐剤などさまざまな用途に使われます。

阪急十三駅

